平成16年(2004年)3月15日　第793号

市の鳥

カワラヒワ

広報えびな

編集・発行
海老名市役所　広報広聴課
〒243－0492
神奈川県海老名市勝瀬175番地の1
☎（046）231・2111
URL http://www.city.ebina.kanagawa.jp
＊この広報は再生紙を使用しています。

ひかり輝く 歴史と遺産

市史跡・文化財の写真ガイドを刊行！

教育委員会では、『**海老名市史跡文化財写真ガイド・ふるさとの歴史と文化遺産**』を刊行します。市内の多くの文化財について、A4判・72ページ・写真付きで分かりやすく解説。「一人でも多くの方に海老名の文化財・歴史に親しんでほしい」という願いを込め、編集しました。遠い昔、先土器時代（約2万年前）に人間が暮らし始めていた形跡が認められる柏ケ谷長ヲサ遺跡。相模国分寺の建立。鎌倉の御家人・海老名氏の活躍。大山道など街道の発達。こうした祖先からのメッセージ、そしてこれからも……。わがまち「海老名」を再発見するために好適な写真ガイドです。今回は、その内容の一部を紹介します。

●国指定史跡「相模国分寺跡」

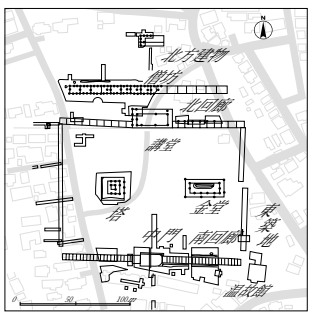
国分寺は、今から約1250年前の奈良時代（天平13年・741）、国家の太平を願う聖武天皇の詔によって全国各地に建立されました。正式名称は「金光明四天王護国之寺」で、奈良の東大寺が総国分寺とされました。相模国では、現在の海老名市が選ばれ『**相模国分寺**』が造営されました。

伽藍（がらん）配置は、中門から講堂に向かって西側に高さ65メートルもあったと推定されている七重の塔、東側に本尊を納めた金堂を配置し、周囲を回廊・築地で囲う法隆寺形式。主要部の範囲は、東西220メートル～240メートル、南北300メートル以上とみられ、その規模は東大寺に匹敵する国内最大級のものだったと推測されています。

また、平成4年度の調査では、『**水煙残欠**』が出土。塔の最頂部に設置されていた水煙の一部と思われる金属棒が、鍍金の残った良好な保存状態で発掘されました。

その後相模国分寺の伽藍は、地震や数度の火災によって失われてしまいました。現在では、その跡地が国指定史跡とされ、歴史公園広場として整備が進められています。

◆アクセス　海老名駅から北部公園行きコミバス、「相模国分寺跡」下車。



●旧街道「戸田の渡し」

神奈川県の中央に位置し、現在も交通の要衝として発展する海老名市。古くから多くの街道が通い、人々が行き交っていました。

徳川家康は幕府を開くと、東海道など江戸を中心にした全国に広がる主要道路を整備しましたが、本郷から門沢橋にぬける大山道は、『**戸田の渡し**』により相模川を越えていました。このため門沢橋付近は、旅籠や茶屋などがならぶ船着場としてにぎわいました。

浮世絵師の歌川（安藤）広重もこの地を訪れ、「富士三十六景さがみ川」の原図といわれる扇子絵「相州大山道中戸田川之渡」を描きました。その意匠は海を渡り、オランダの画家ゴッホにも影響を与えました。「タンギーじいさん」という作品の背景にある6枚の浮世絵、その一つが広重の「さがみ川」といわれています。

◆アクセス　門沢橋駅から徒歩10分。

●今に伝わる海老名の〝宝〟

太古の人々の生活を語る「杉久保遺跡出土の縄文土器」（右上）。地域の努力により、江戸期の地芝居が現在まで継承「大谷歌舞伎」（左上）。旧海老名村役場が現存「郷土資料館・温故館」（下）。

●伝承「笑う閻魔様」

「かながわ名木100選」に選ばれているカヤの大木が目印の大谷観音堂。ここに安置されている閻魔王座像は、像高約50センチの寄木造り、玉眼の像で『**笑う閻魔様**』の昔話が伝わっています。

大飢饉（ききん）が村を襲った江戸時代（天保年間）、実った稲を盗んだとあらぬ疑いをかけられた若者が、閻魔様の前で無実を訴えました。すると閻魔様は、大口を開けて笑い出し、「本当の悪人を、今あぶりだしてやる」と口から炎を吹き出しました。その炎は、居合わせた真犯人の髪をちりちりと焼いたそうです。

閻魔様の木像も古く傷み、居合わせた昔の面影も見られなくなっていましたが、平成14年に修復され、一般公開されています。見る人によっては、怒り顔にも笑い顔にも見える不思議な顔立ちは、昔から地域の人たちに親しまれています。

◆アクセス　海老名駅から農大前行きバス「大谷宿」下車徒歩2分。

●国指定重文「千手観音立像」

臨済宗鎌倉建長寺末の龍峰寺。春のお花見シーズンには、大勢の人が境内を訪れる事でも有名です。

相模国分尼寺ゆかりの古刹でもある観音堂（水堂）の本尊は、国指定重要文化財に指定されている『**千手観音立像**』。像高約2メートル、カヤ材一木造り。脇手の一組を頭上に組んで小さな仏像を頂く独特の姿は、清水寺式千手観音と呼ばれています。彫り方や表現方法など平安期の特徴を持っていますが、写実的表現の面ざしや玉眼嵌入（ガラスなどの眼球をはめ込む技法）などから、鎌倉末期ごろに補修されたか、古い本尊にならって再興されたものと考えられています。

通常は収蔵庫に安置され非公開の仏像ですが、元旦と例祭（3月17日）に一般公開されています。

◆アクセス　海老名駅から北部公園行きコミバス「国分第一児童公園」下車徒歩10分。

問い合わせ

文化財課（内682）

『海老名市史跡文化財写真ガイド・ふるさとの歴史と文化遺産』は、市役所地下売店と温故館（☎233・4028＝月曜休館）で有料頒布（税込み800円）します。

また、ガイドの中で紹介した龍峰寺「千手観音立像」などの貴重な文化財の写真を、ポストカードにして販売（12枚1セット、税込み200円）します。